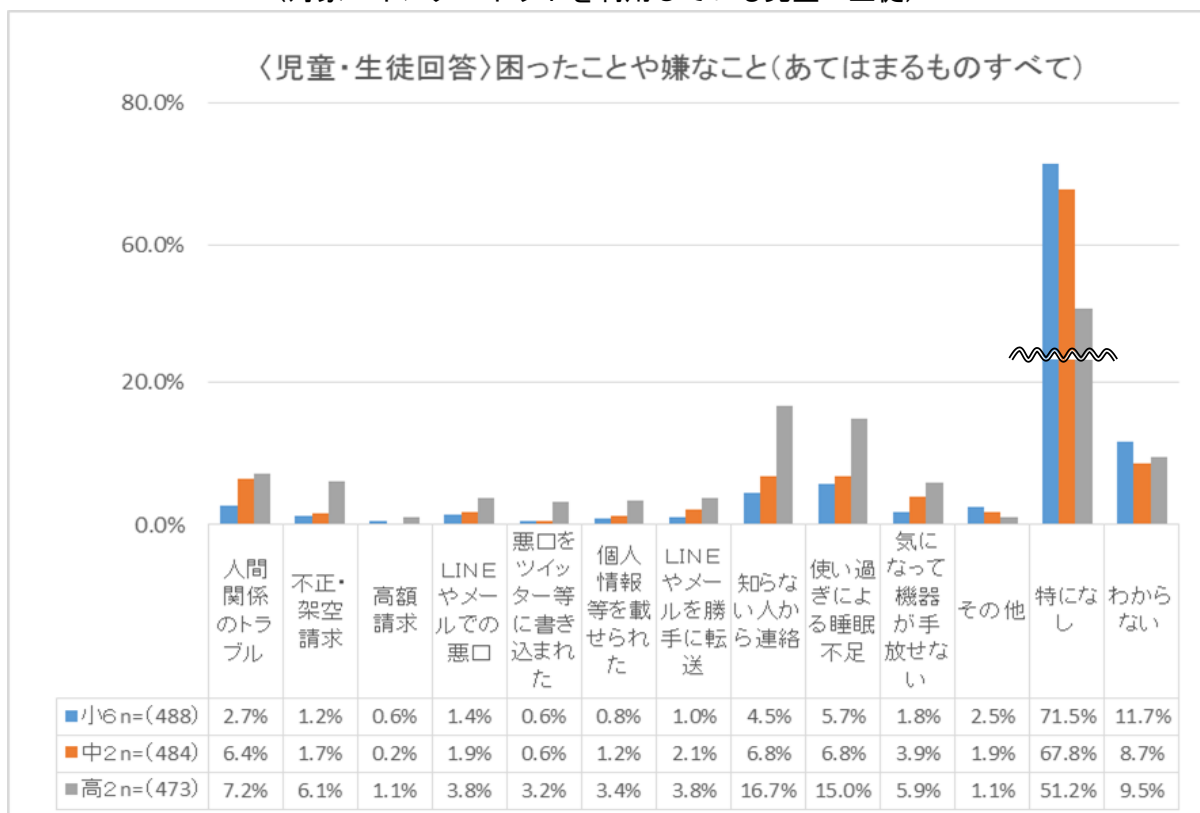


4 インターネット利用に関連したトラブル

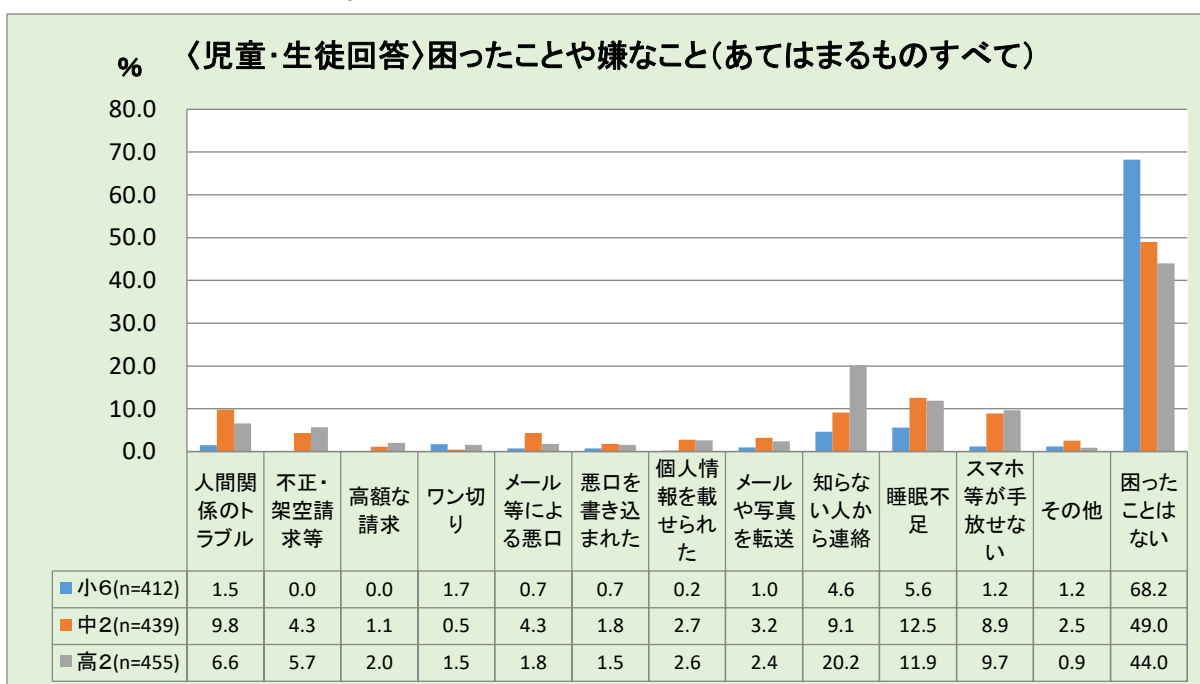
(1) インターネット利用に関連したトラブルの経験

〈児童・生徒〉Q17. これまでにインターネットを利用して、困ったことや嫌なことがありましたか。(あてはまるものすべてを選択)
(対象：インターネットを利用している児童・生徒)



【参考】平成27年度調査

【児童・生徒】Q14. これまでにインターネットを利用して、困ったことや嫌なことがありましたか。



(インターネット利用に関連したトラブルの経験)

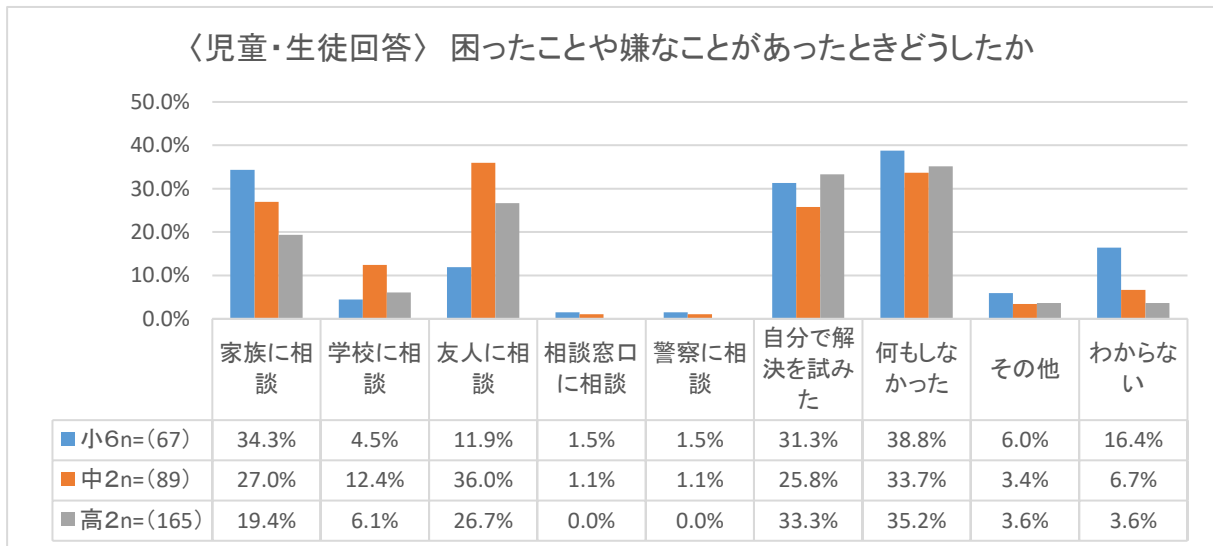
- ・いずれの学校種においても「特になし」が大半であり、その割合は前回より増加しているが、小6については、「人間関係のトラブルがあった」が1.2ポイント増加しているほか、前回は該当がなかった「不正・架空請求等をされた」「高額な請求をされた」が出てきており、「LINEやメールが気になりスマートフォン等が手放せない」も微増している。前回とほぼ同率であるが、「知らない人から連絡が来た」を挙げた児童も4.5%ある。
- ・高2については、「使い過ぎて睡眠不足になった」が3.1ポイント増加しているほか、LINE・メール・Twitter等に悪口を書かれる割合が増加し、「人間関係のトラブルがあった」も微増している。
- ・児童・生徒がトラブルに巻き込まれないようにするため、引き続きインターネットとの正しい付き合い方について、「インターネット上の知り合いに会おうと言われた」等の事例を取り上げ学校や家庭で子ども同士や親子等で考えて話し合うことを勧めたり、疑似体験によりトラブルに巻き込まれない利用について考える機会を提供したりするなど、自分のこととして捉えられるような啓発に取り組んでいくことが必要である。

(2) トラブル時の対処

〈児童・生徒〉Q18. 困ったことや嫌なことがあったとき、どうしましたか。

(あてはまるものすべてを選択)

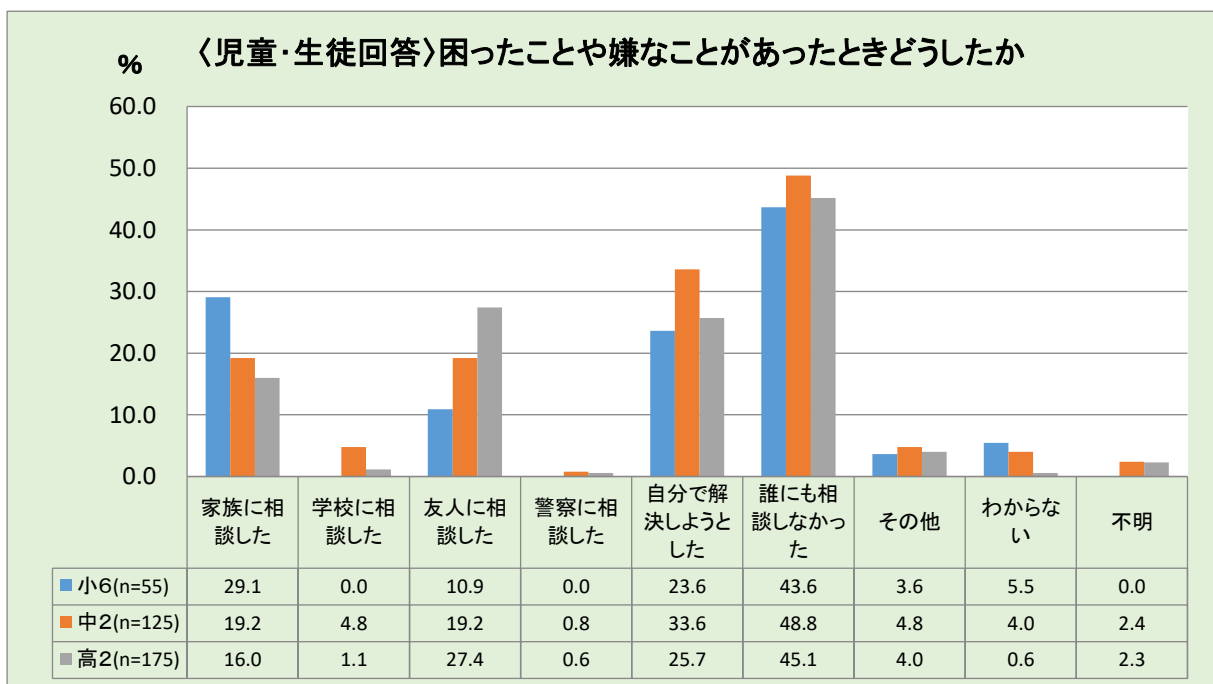
(対象：インターネットを利用している児童・生徒のうち、困ったことや嫌なことがあった者)



【参考】平成27年度調査

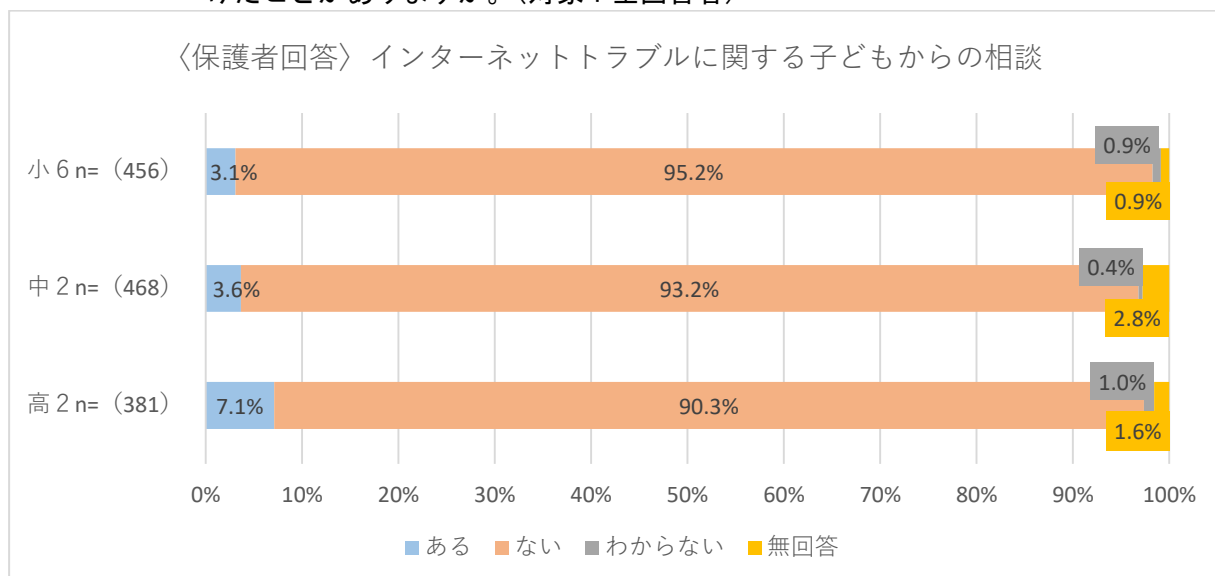
〈児童・生徒〉Q15. 困ったことや嫌なことがあったとき、どうしましたか。

(あてはまるものすべてを選択)



※設問が今回と異なるため、単純比較ができない項目がある。

〈保護者〉Q16. あなたはこれまでに、お子様からインターネットでのトラブルについて相談を受けたことがありますか。(対象：全回答者)



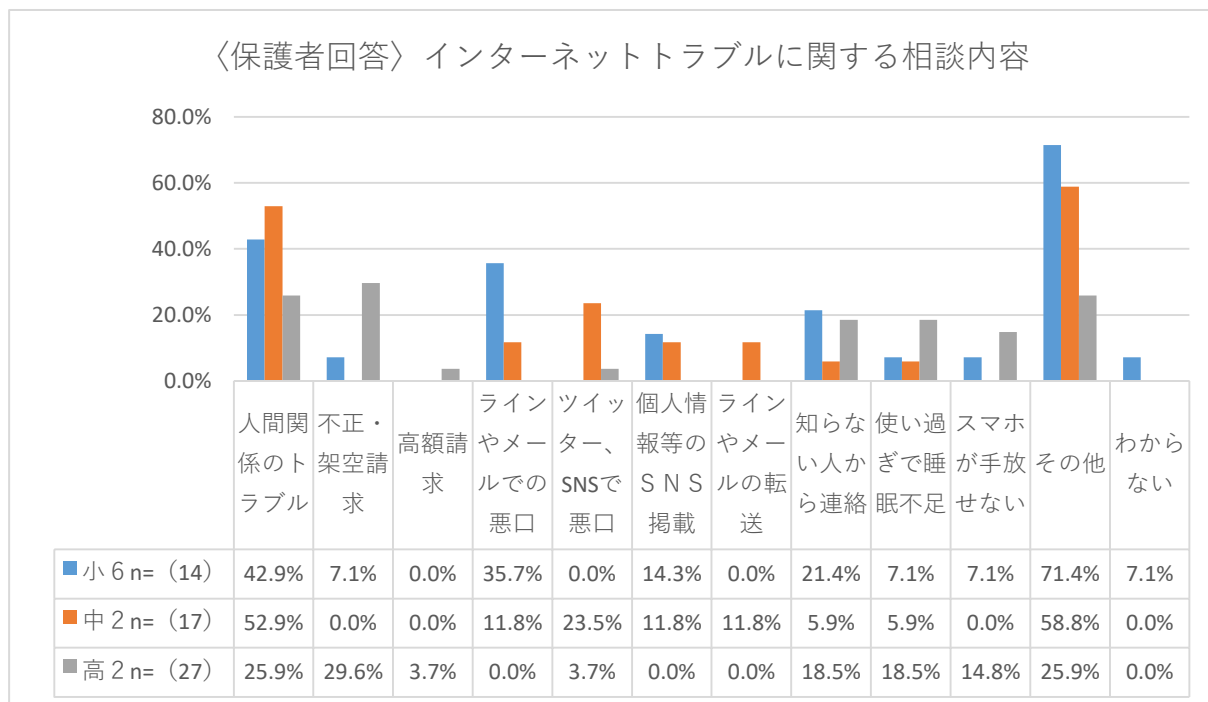
〈トラブル時の対処〉

- ・困ったときの相談相手について、学校種が上がるにしたがって「家族に相談した」が減少し、「友人に相談した」が増加している。また、前回調査と比べ、高2において「友人に相談した」が微減した以外は、家族・学校・友人に相談した割合が増加しており、特に学校へ相談した割合は全ての学校種において増加している。「困ったことがあったときに周囲に相談する」ことについて少しずつ浸透してきたことがうかがえる。
- ・困ったときや嫌なことがあったときに「何もしなかった」と回答した児童生徒は、小6で38.8%、中2で33.7%、高2で35.2%であり、相談窓口(警察を含む)について、一層周知をしていく必要がある。
- ・トラブルについて相談を受けるためには保護者の側が子どものインターネット利用の実態を知ることが大切であり、また、日ごろから困ったときに相談できる関係にあることが前提となるため、保護者がインターネットの危険性について学習する機会を提供するとともに、その中で親子の話し合いの重要性についても伝えていく必要がある。

〈保護者〉Q17. 相談内容は何に関することでしたか。(あてはまるものすべてを選択)

(対象:子どもからインターネットでのトラブルについて相談を受けたことがある保護者)

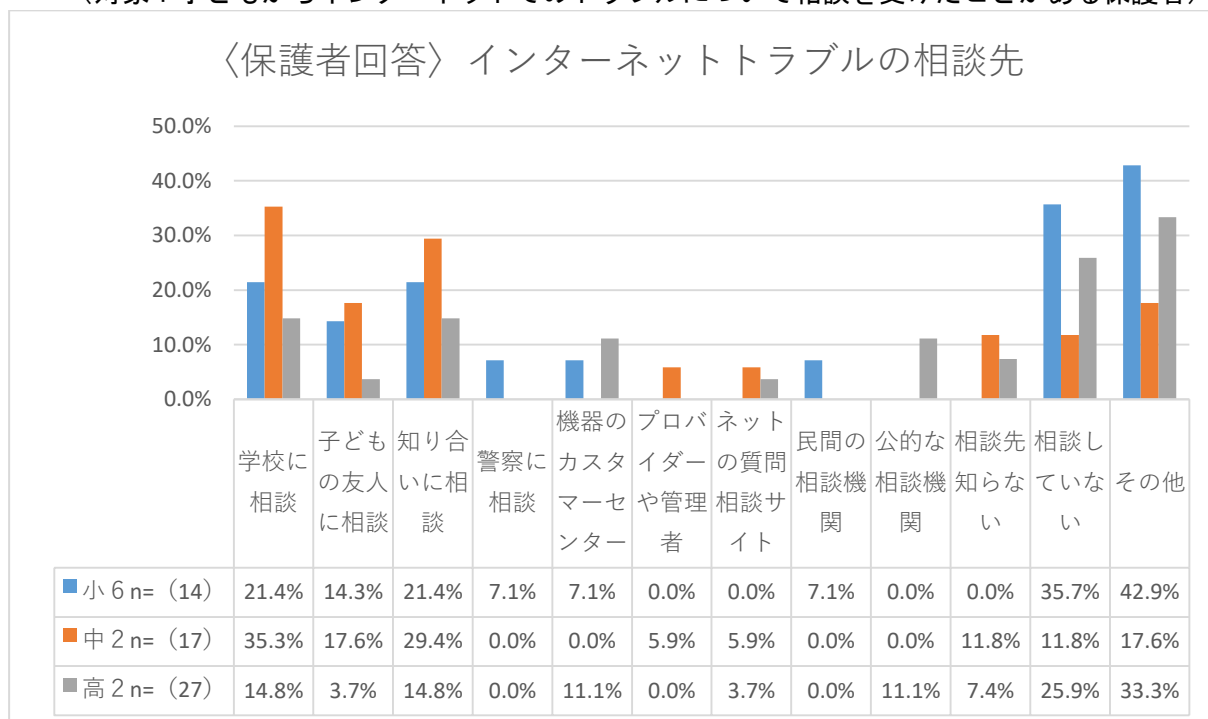
※以下は標本数が50未満のため参考値として掲載しています。また、分析の対象からも除いています。



〈保護者〉Q18. あなたは、お子様から相談を受けたとき、どなたかに相談しましたか。

(あてはまるものすべてを選択)

(対象:子どもからインターネットでのトラブルについて相談を受けたことがある保護者)



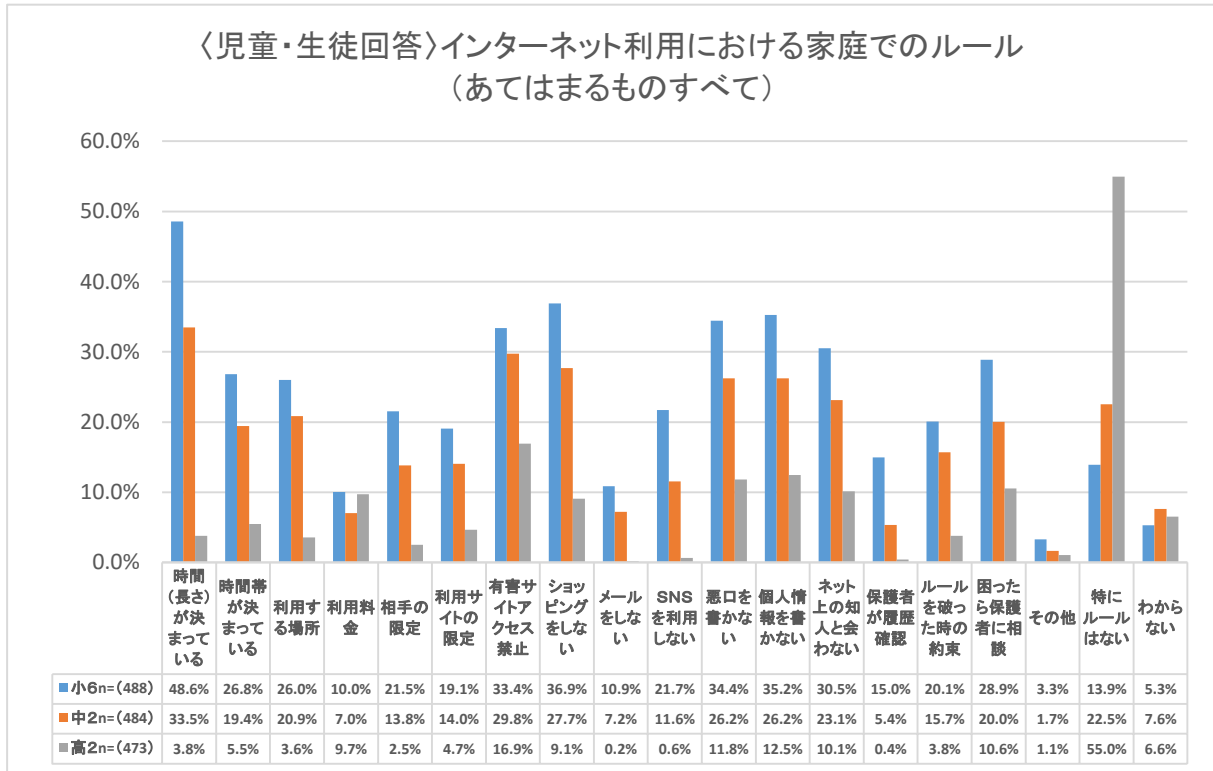
5 家庭でのルール

(1) 家庭での約束やルール

〈児童・生徒〉 Q19. インターネットの利用について、家庭でのルールや約束事がありますか。

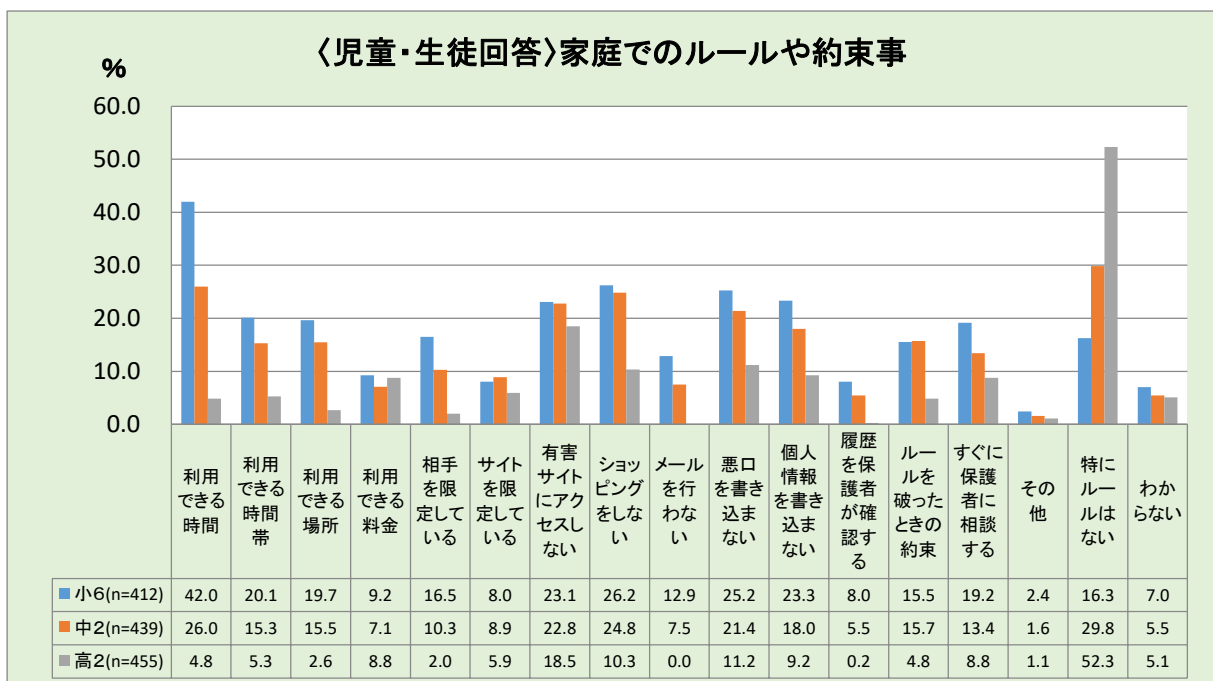
(あてはまるものすべてを選択)

(対象：インターネットを利用している児童・生徒)



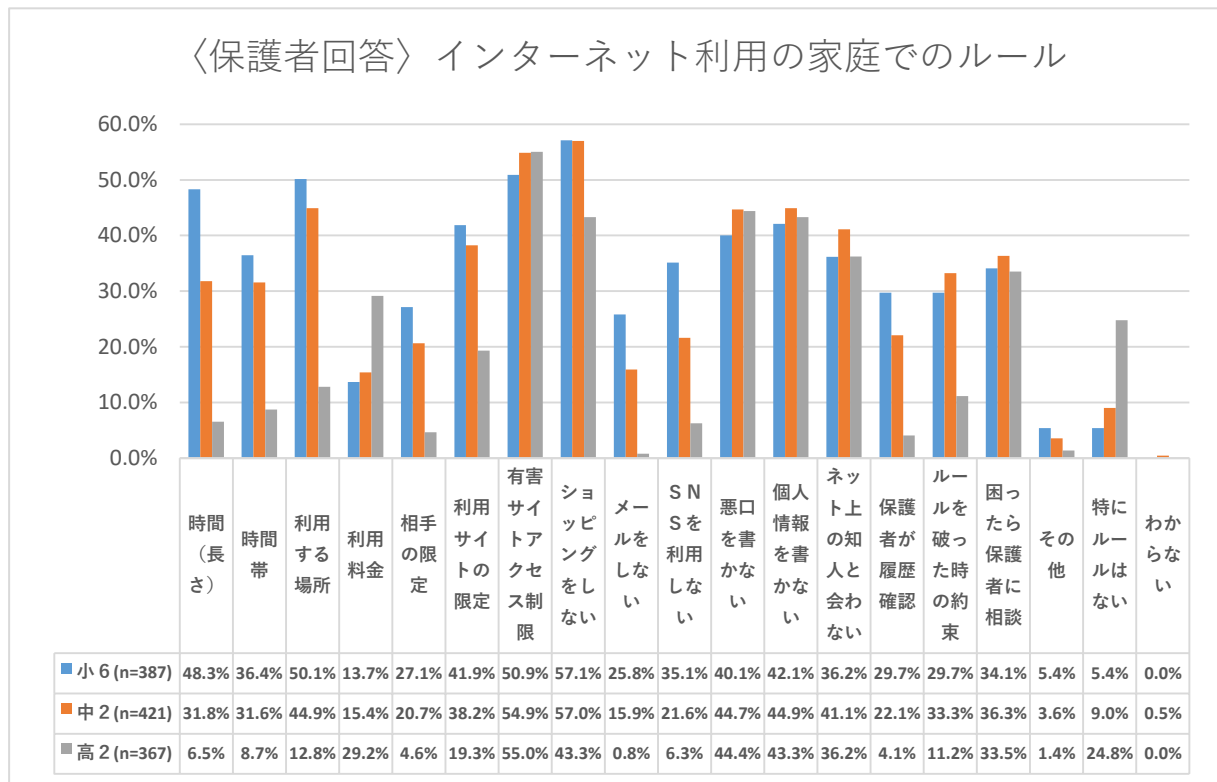
【参考】平成27年度調査

〈児童・生徒〉 Q16. インターネットの利用について家庭でのルールや約束事がありますか



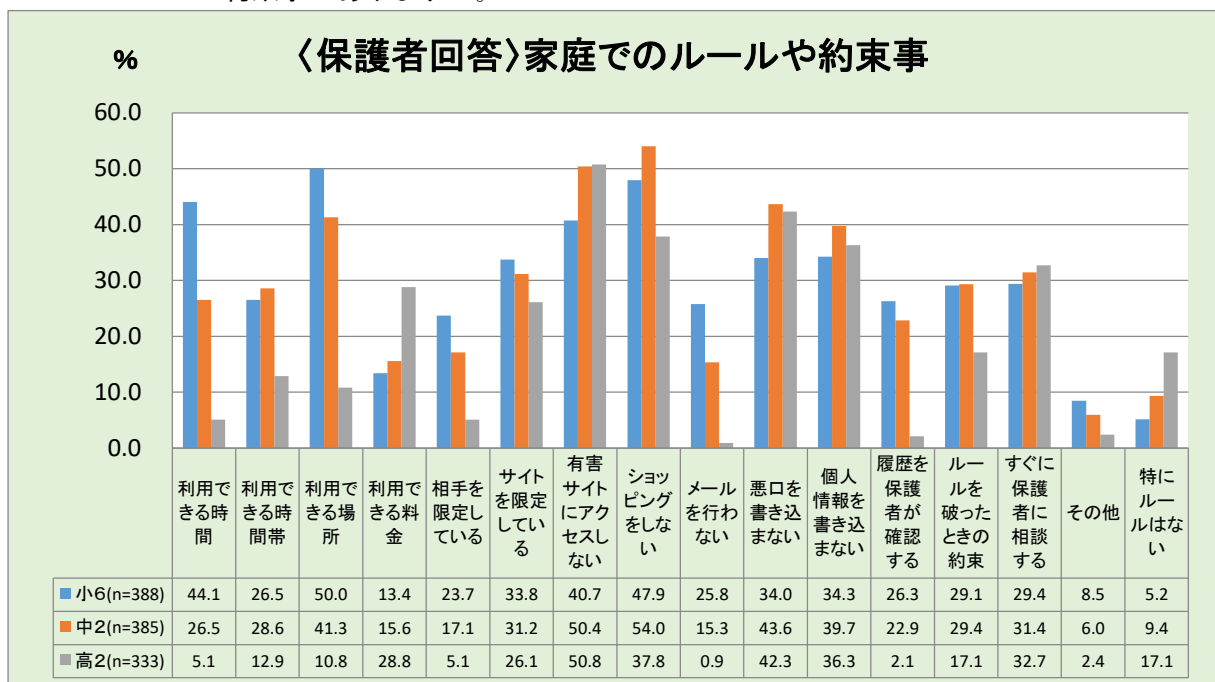
〈保護者〉Q5. あなたのご家庭では、お子様のインターネット（スマートフォン・携帯電話・パソコン・ゲーム機・音楽プレーヤーなどによる）の使用に何らかのルールや約束事がありますか。（あてはまるものすべてを選択）

（対象：子どもがインターネットを利用していると回答した保護者）

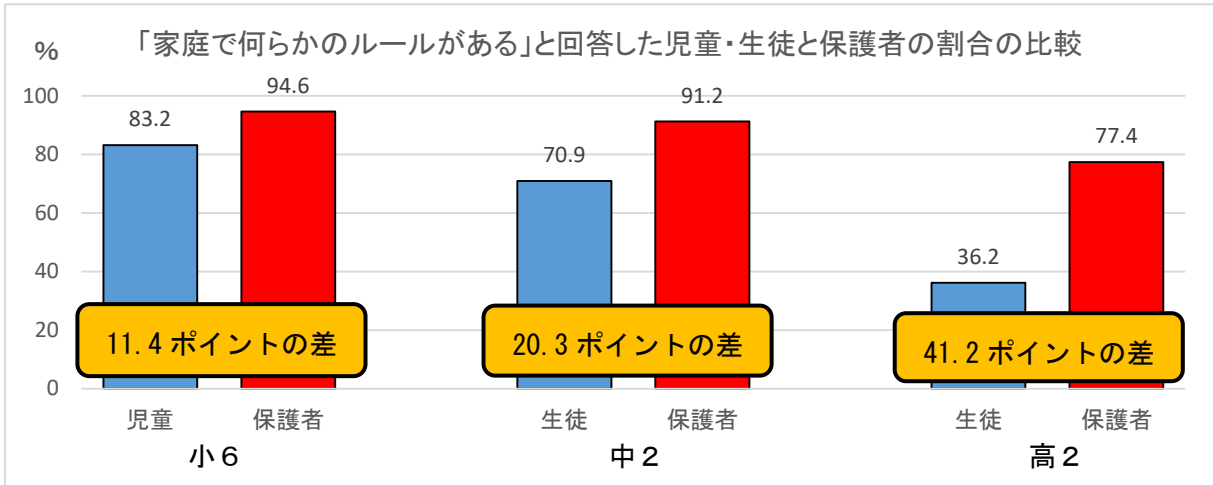


【参考】平成27年度調査

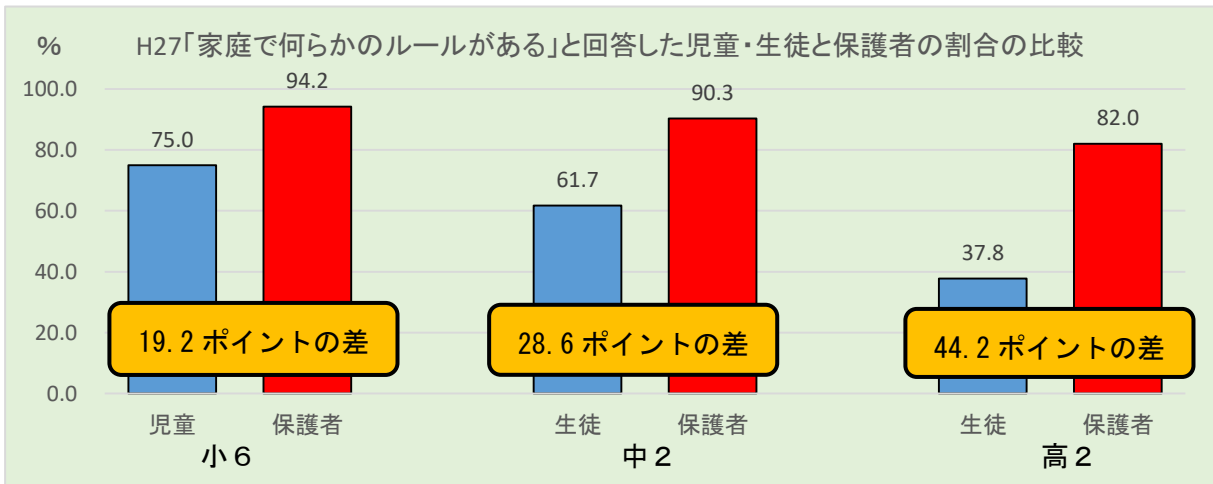
〈保護者〉Q6. あなたのご家庭では、お子様のインターネット（スマートフォン・携帯電話・パソコン・ゲーム機・音楽プレーヤーなどによる）の使用に何らかのルールや約束事がありますか。



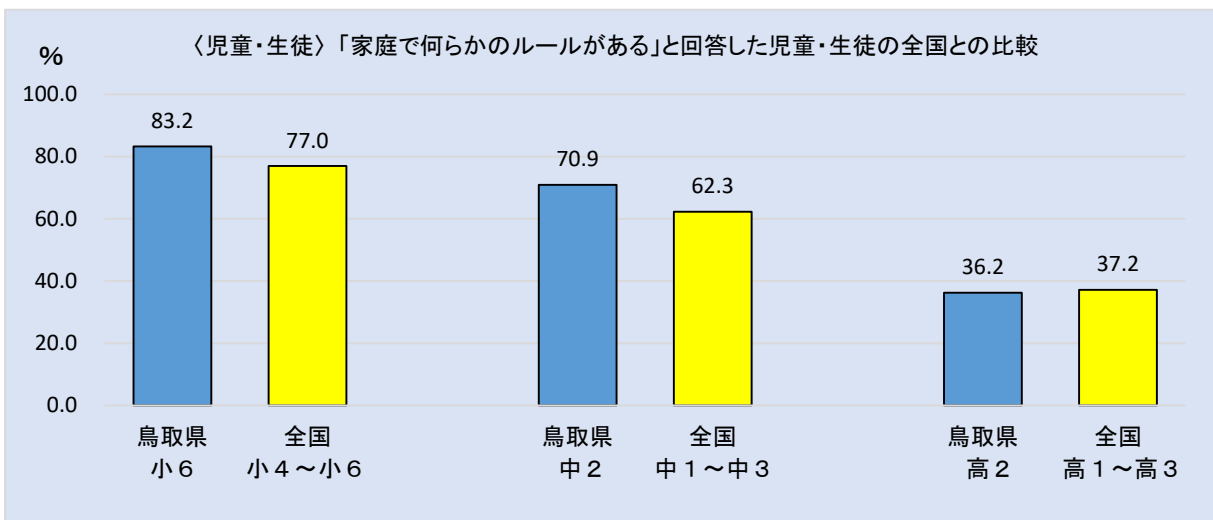
【参考】



平成 27 年度調査結果との比較



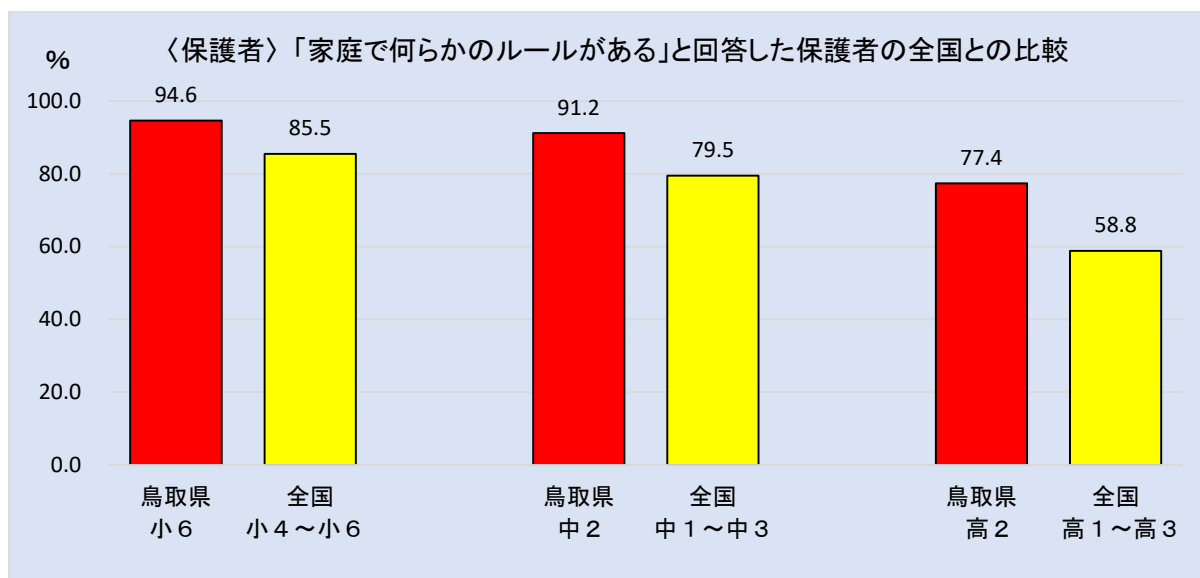
全国調査との比較〈児童・生徒〉



出典 「平成30年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(内閣府)

※全国の数値は、小学校4年生から6年生の平均値、中学1年生から3年生の平均値、高校1年生から3年生の平均値であり、単純比較はできない。

全国調査との比較〈保護者〉



出典 「平成30年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(内閣府)

※全国の数値は、小学校4年生から6年生の平均値、中学1年生から3年生の平均値、高校1年生から3年生の平均値であり、単純比較はできない。

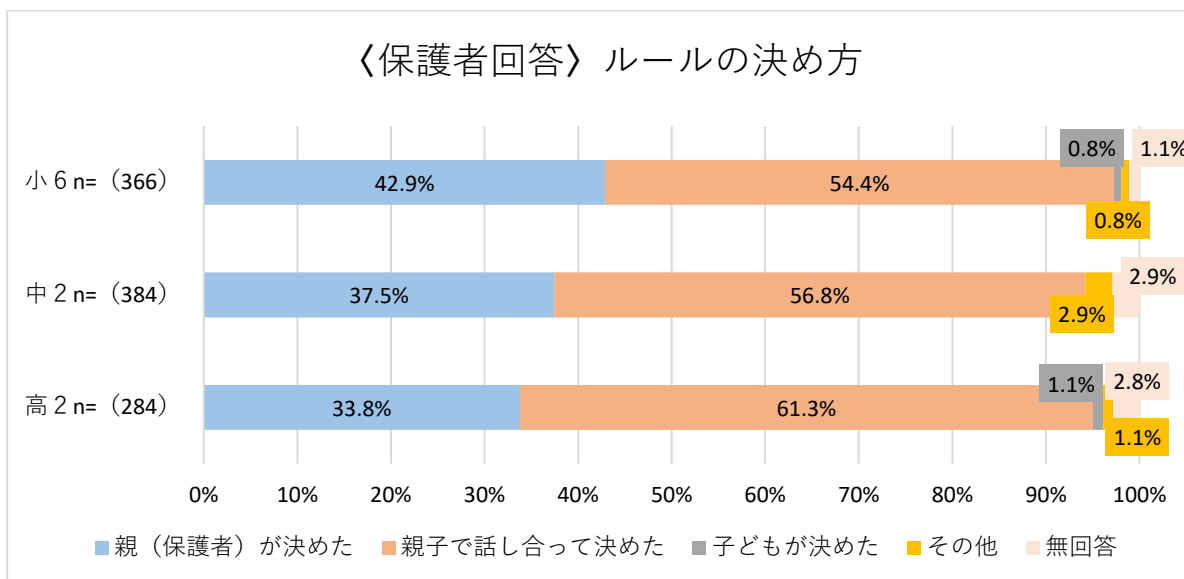
〈家庭での約束やルールとその内容〉

- ・「家庭でのルールがある」と回答した児童・生徒は、前回調査と比べ、小6で8.2ポイント、中2で9.2ポイント増えており、また、多くの項目でルールの設定率が上がっている。児童・生徒、保護者へのルール作りの大切さに関する啓発が一定の成果を上げていると考えられる。
- ・一方、高2については、「家庭でのルールがある」割合が生徒・保護者とも前回を下回っており、一層の啓発が必要。
- ・「家庭でのルール」に関して、子どもと保護者との意識の差は学校種が上がるにしたがって大きくなる。この傾向は前回調査から変わっていないが、どの校種とも前回からは少し改善されている。
- ・今年度初めて調査した「インターネット上で知り合った人と会わない」については、小6でも子ども、保護者ともに「ルールがある」が3割台であり、保護者については学校種が上がっても「ルールがある」との認識は同程度であるのに対し、生徒については中2で23.1%、高2で10.1%と低下する。インターネット上の知人と会うことの危険性について改めて啓発していくことが重要である。また、学校種が上がるにつれて、子どもと保護者との意識に開きが大きくなっており、親子での話し合いによるルール作りが必要である。
- ・児童・生徒が回答した家庭でのルールで割合が高いものは、以下のとおり
 - 小6 「利用できる時間(長さ)が決まっている」「ショッピングをしない」「自分や他人の個人情報を書き込まない」
 - 中2 「利用できる時間(長さ)が決まっている」「有害サイトにアクセスしない」「ショッピングをしない」
 - 高2 「有害サイトにアクセスしない」「自分や他人の個人情報を書き込まない」「悪口や人を傷つけることを書き込まない」

(2) 家庭でのルールの決め方

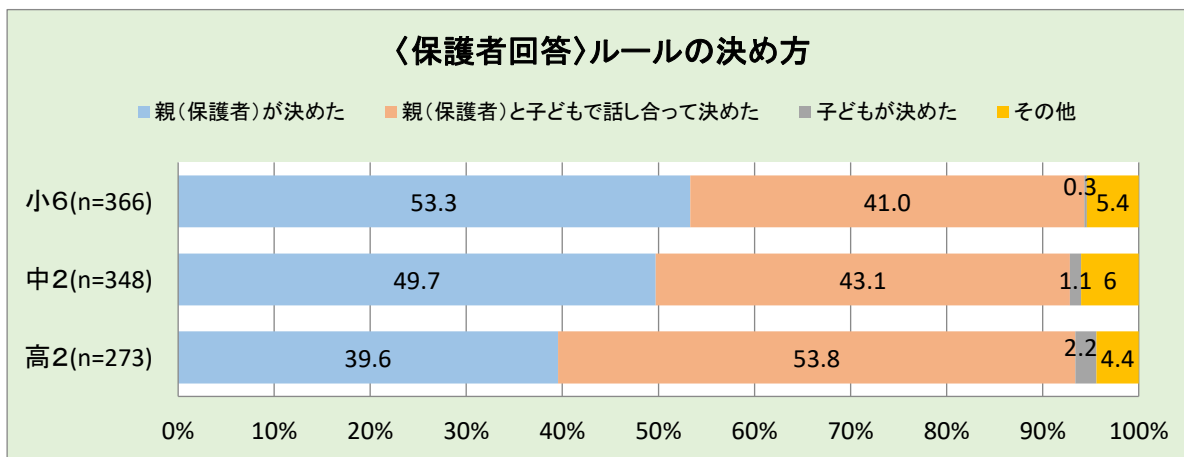
〈保護者〉 Q6. ルールや約束事は、どのようにして決めましたか。

(対象：子どもがインターネットを利用していると回答した保護者のうち、ルールがあると回答した者)



【参考】平成27年度調査

〈保護者〉 Q7. ルールや約束事は、どのようにして決めましたか。



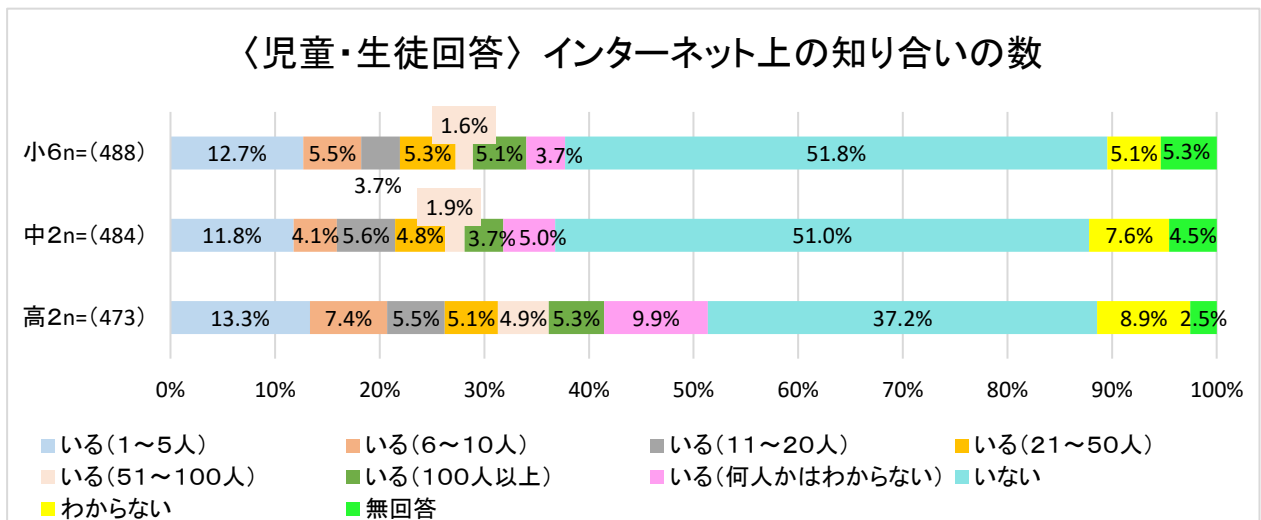
〈家庭でのルールの決め方〉

- ・「親(保護者)が決めた」割合は学校種が上がるにつれて減っていき、「親(保護者)と子どもで話し合っ
て決めた」割合が増えていく。
- ・前回調査と比べ、「親(保護者)と子どもで話し合っ
て決めた」割合がどの学校種でも大きく増
加しており、話し合いによるルール作りの必要性について啓発を進めてきたことが一定の成果
を上げていると考えられる。

6 インターネット上の知り合い

(1) インターネット上の知り合いの人数

〈児童・生徒〉 Q20. あなたには、インターネット上での知り合いがいますか。
 (対象：インターネットを利用している児童・生徒)

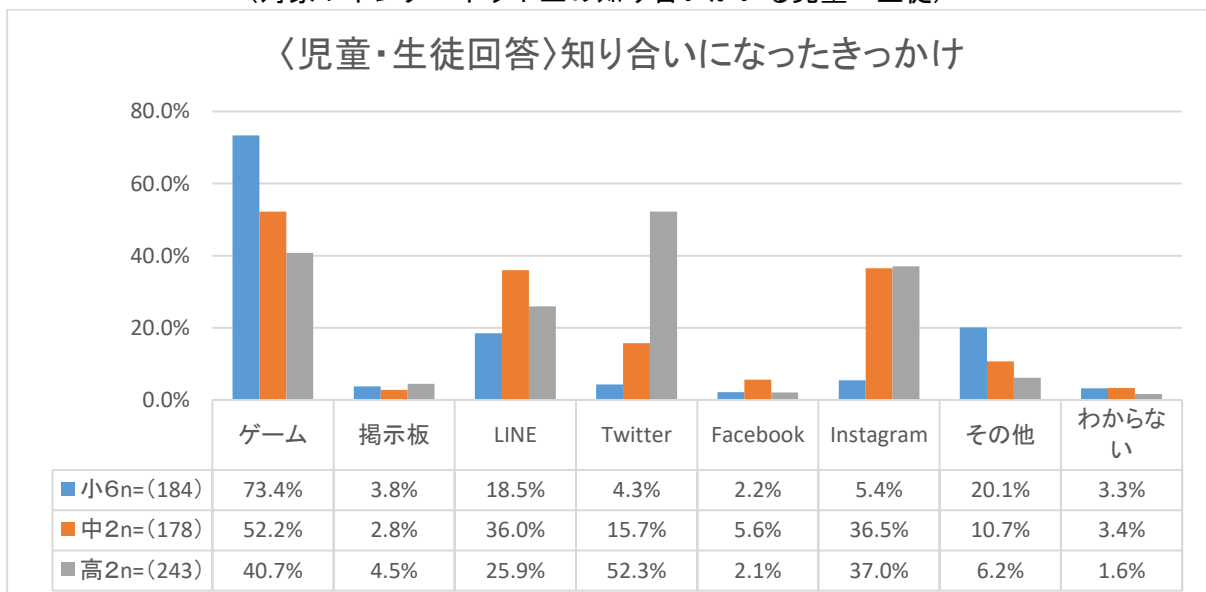


〈インターネット上の知り合い〉

- ・インターネット利用者（小6：88.1%、中2：89.3%、高2：95.4%）（p10に掲載）のうち、インターネット上の知り合いがいと回答した割合は、小6で37.6%（H27：16.5%）、中2で36.9%（H27：36.4%）、高2で51.4%（H27：37.4%）であり、小6で21.1ポイント、高2で14.0ポイント増えるなど、前回調査より大幅に増えている。
- ・また、「100人以上」と回答した児童・生徒もいずれの学校種も4~5%程度存在している。

(2) 知り合ったきっかけ

〈児童・生徒〉 どんなきっかけでインターネット上の知り合いになりましたか。
 (あてはまるものすべてを選択)
 (対象：インターネット上の知り合いがいる児童・生徒)



〈知り合ったきっかけ〉

- ・小6・中2はゲーム（オンラインゲーム）が多く、高2ではTwitterが一番多い。中高生ではInstagramやLINEも多い。インターネットを介したゲームやSNS等につながりやすくなっていることがうかがえる。

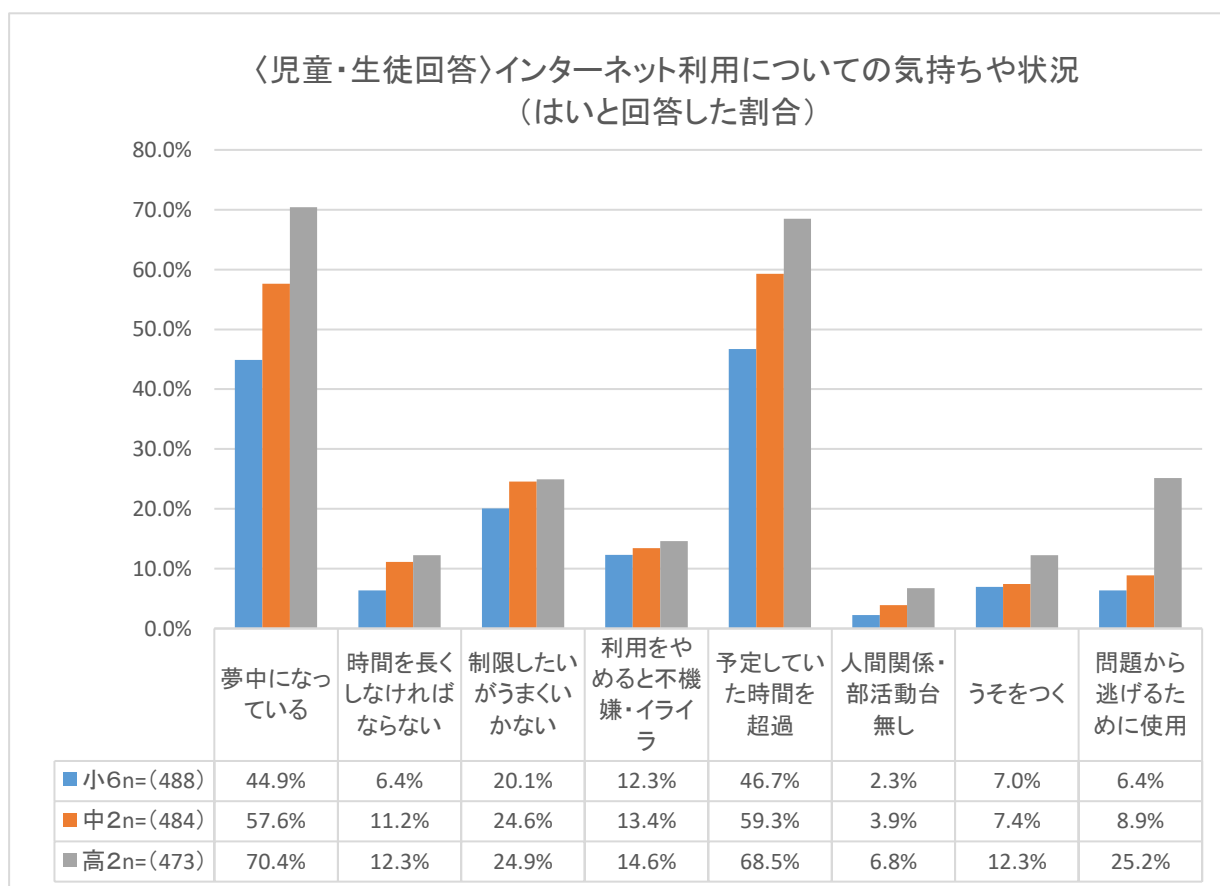
7 インターネット利用についての気持ちや状況（依存傾向）

（1）インターネット利用についての気持ちや状況

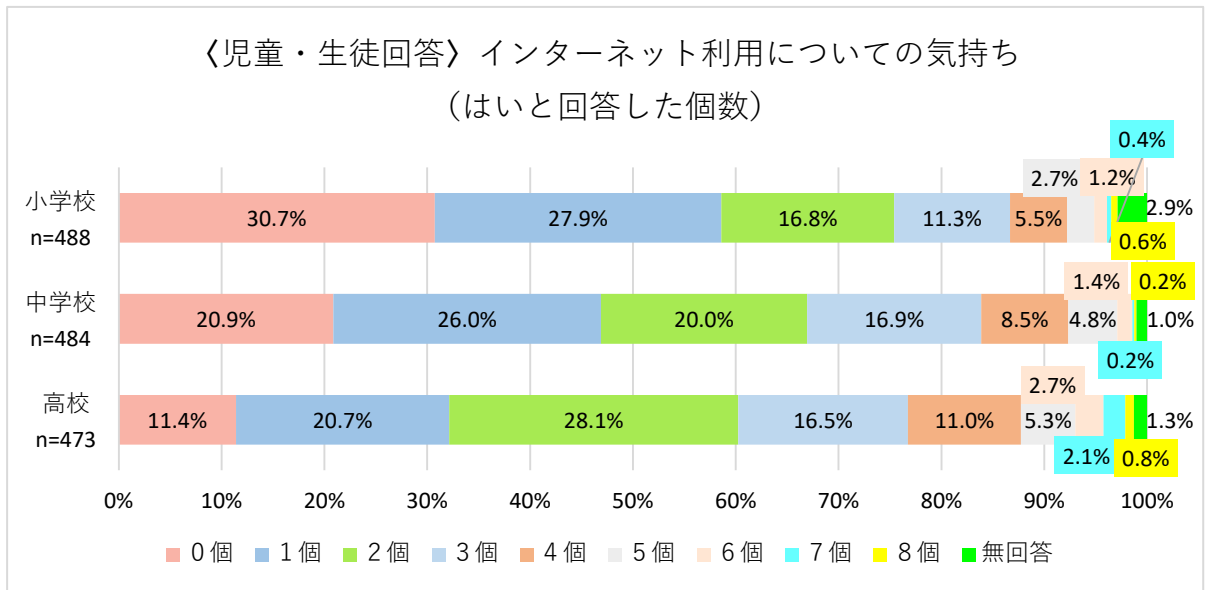
〈児童・生徒〉Q21～28 「はい」か「いいえ」で回答

（対象：インターネットを利用している児童・生徒）

- Q21. あなたは、インターネットに夢中になっていると感じていますか
- Q22. あなたは、満足するために、インターネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じていますか
- Q23. あなたは、インターネット利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしても、うまくいかなかったことが何回もありましたか
- Q24. インターネットの利用時間を短くしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じましたか
- Q25. あなたは、使い始めに予定していた時間よりも長い時間インターネットを使うことがありますか
- Q26. あなたは、インターネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活動のことを台無しにしたり、あやうくしたりするようなことがありましたか
- Q27. あなたは、インターネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがありましたか
- Q28. あなたは、問題から逃げるためにまたは、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げるためにインターネットを使いますか

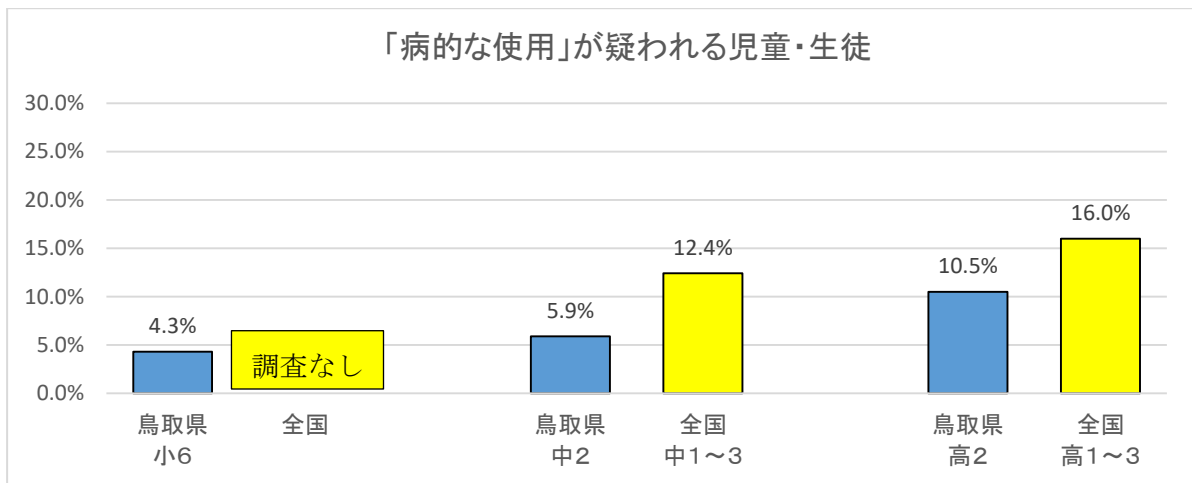


○Q 2 1～2 8の8項目における該当項目の数（「はい」と答えた個数）
 （対象：インターネットを利用している児童・生徒）

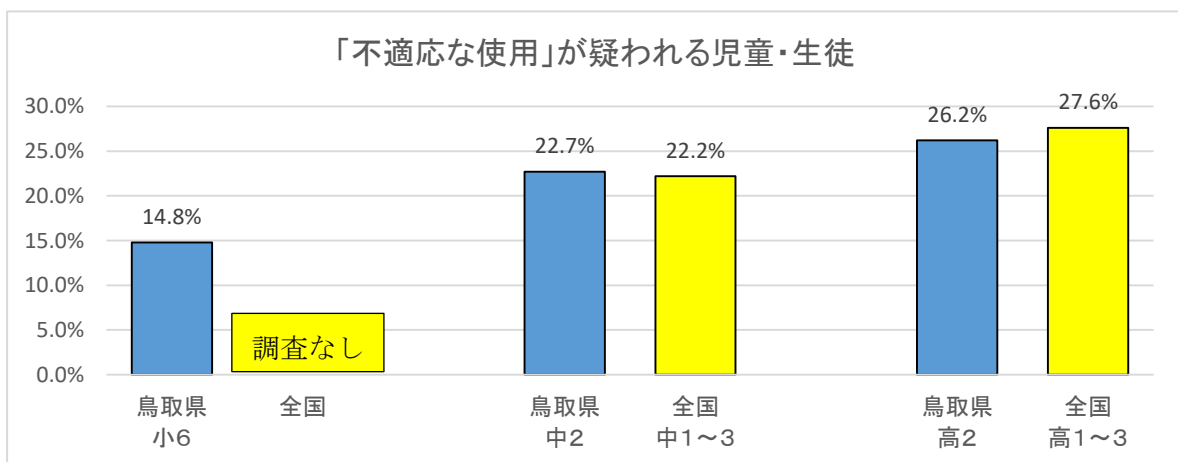


※「尾崎米厚（2018），飲酒や喫煙等の実態調査と生活習慣病予防のための減酒の効果的な介入方法の開発に関する研究, 55」では、5つ以上「はい」と答えた場合を「病的な使用者」、3～4つを「不適応な使用者」、2つ以下を「適応な使用者」としている。

○回答者全体に対する「病的な使用」が疑われる児童・生徒の割合（全国との比較）



○回答者全体に対する「不適応な使用」が疑われる児童・生徒の割合（全国との比較）



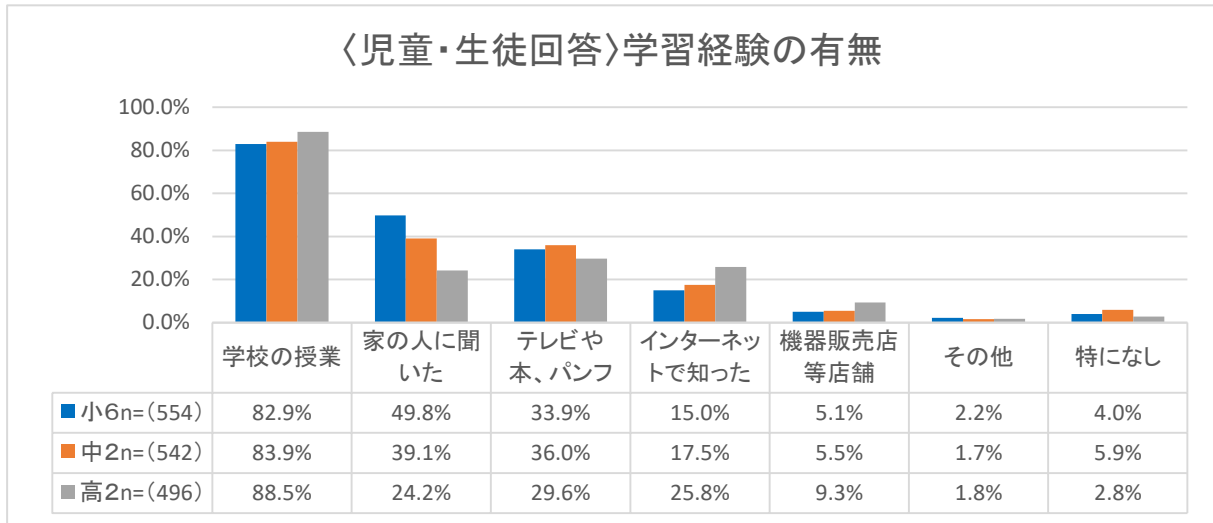
〈インターネット利用についての気持ちや状況〉

- ・どの学校種においても、「インターネットに夢中になっている」「予定していた時間よりも長い時間インターネットを使うことがある」と答えた割合が高く、高2では、7割前後の生徒が回答している。
- ・インターネットを利用している高2の約4人に1人（25.2%）は、「問題から逃げるためにまたは、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げる」ためにインターネットを使っている。（高2全体（496人）の24.0%）
- ・インターネットを利用している児童・生徒のうち、病的な使用が疑われる（8項目中、5項目以上「はい」と回答）のは、小6で4.9%、中2で6.6%、高2で10.9%となった。インターネットを利用していない者も含めた回答者全体でみると、小6全体（554人）の4.3%で約23人に1人、中2全体（542人）の5.9%で約17人に1人、高2全体（496人）の10.5%で約10人に1人が、病的な使用が疑われる結果となった。尾崎氏の研究では、中高生の7人に1人（中学生の12.4%、高校生の16.0%）が病的使用者に当たるとの結果であり、これに比べ病的使用の割合は低くなっている。
- ・インターネットを利用している児童・生徒のうち、不適応な使用が疑われる（8項目中、3もしくは4項目「はい」と回答した）のは、小6で16.8%、中2で25.4%、高2で27.5%となった。インターネットを利用していない者も含めた回答者全体でみると、小6全体（554人）の14.8%、中2全体（542人）の22.7%、高2全体（496人）の26.2%が不適応な使用が疑われる結果となった。尾崎氏の研究では、中学生の22.2%、高校生の27.6%が不適応使用者に当たるとなっている。
- ・「病的な使用」が疑われる中高生は、全国値と比較して少ない結果となったが、一定数の児童・生徒が該当しており、予備軍ともいえる「不適応使用」が疑われる児童・生徒が相当数いることから、病的使用・不適応使用に陥らないインターネットとの付き合い方について、児童・生徒、保護者への学習機会の確保と啓発に一層力を入れていく必要がある。

8 インターネットの危険性についての学習

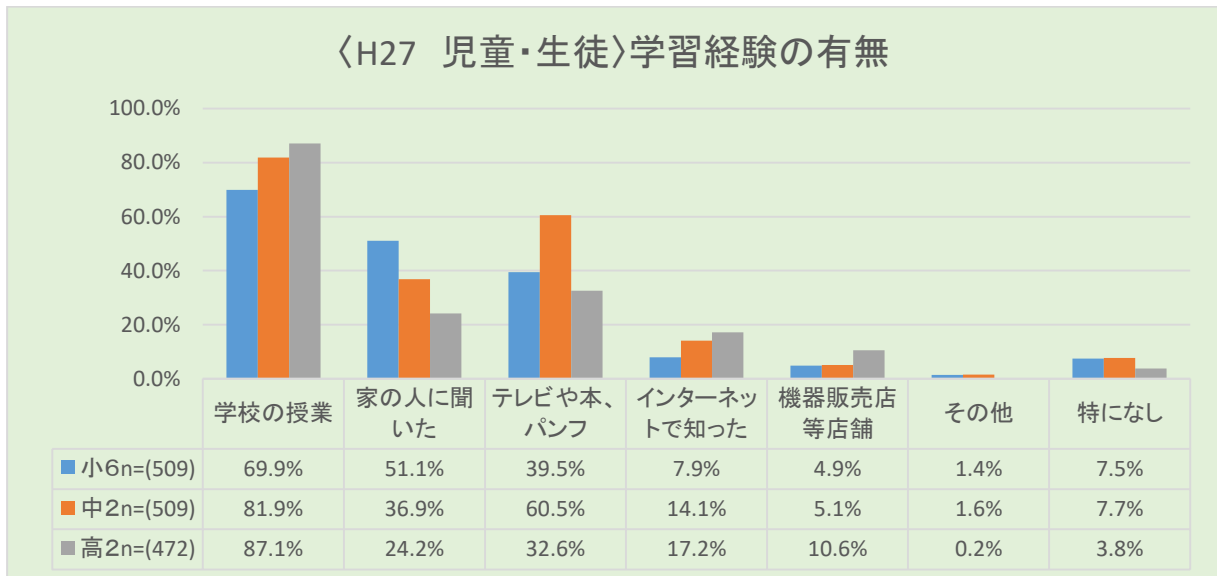
(1) インターネットの危険性についての学習の経験

〈児童・生徒〉Q29. あなたは、インターネットの危険性について、説明を受けたり、学んだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてを選択) (対象:全回答者)



【参考】平成27年度調査

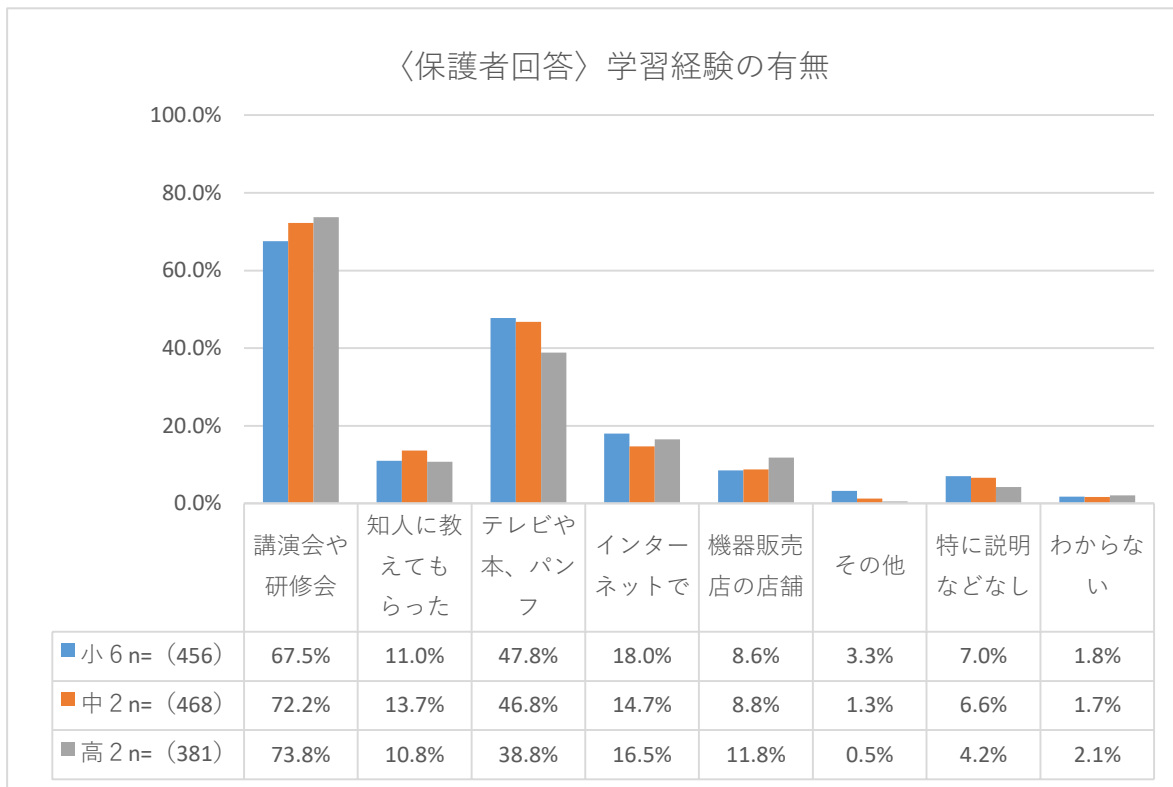
〈児童・生徒〉Q21. あなたは、インターネットの危険性について、説明を受けたり、学んだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてを選択)



〈児童・生徒 インターネットの危険性についての学習経験〉

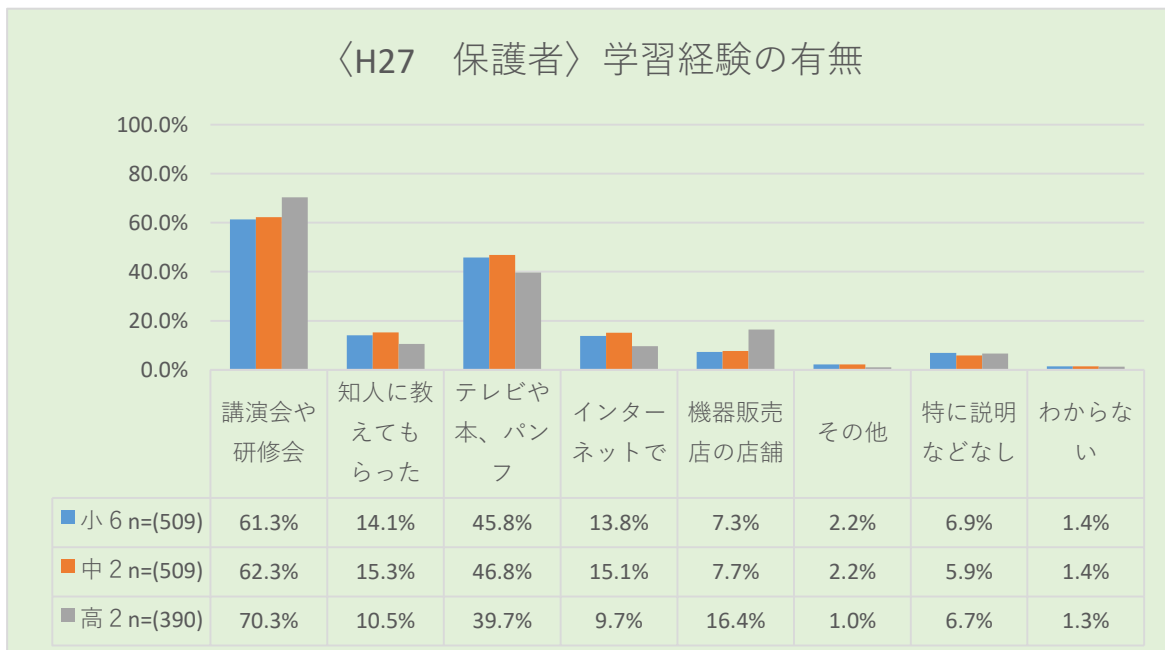
- ・全ての学校種において「学校の授業で教えてもらった」「インターネットで知った」と回答した割合が増加している。特に、「学校の授業で教えてもらった」についてはいずれも8割を超え、学校種が上がるにつれて増加している。また、小6で前回から13.0ポイント増となり、学校における情報モラル教育の実施が定着してきたことがうかがえる。

〈保護者〉Q19. あなたは、インターネットの危険性について、説明を受けたり、学んだりしたことがありますか。(対象：全回答者)



【参考】平成27年度調査

〈保護者〉Q24. あなたは、インターネットの危険性について、説明を受けたり、学んだりしたことがありますか。



〈保護者 インターネットの危険性についての学習経験〉

- ・ 前回調査に比べ、全ての学校種において、講演会・研修会での学習経験が増加しており、保護者を対象とした啓発が一定の成果を上げていることがうかがえる。

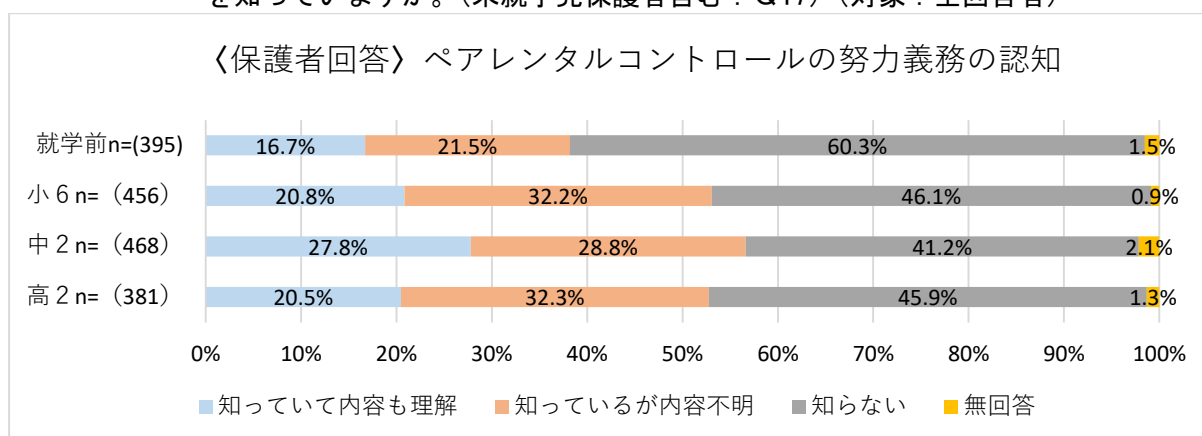
- ・学習した経験は全国平均より高く、H27調査と比べても増加しているが、年長児の保護者の学習経験は、他に比べ低い傾向にある。

○「何らかの学習をしたことがある」と回答した保護者の割合

	今回調査 (全国調査)	H27調査
年長児	83.3%	76.7%
小6	91.2% (小4~6: 69.6%)	90.3%
中2	91.2% (中1~3: 79.7%)	90.1%
高2	93.2% (高1~3: 79.4%)	91.2%

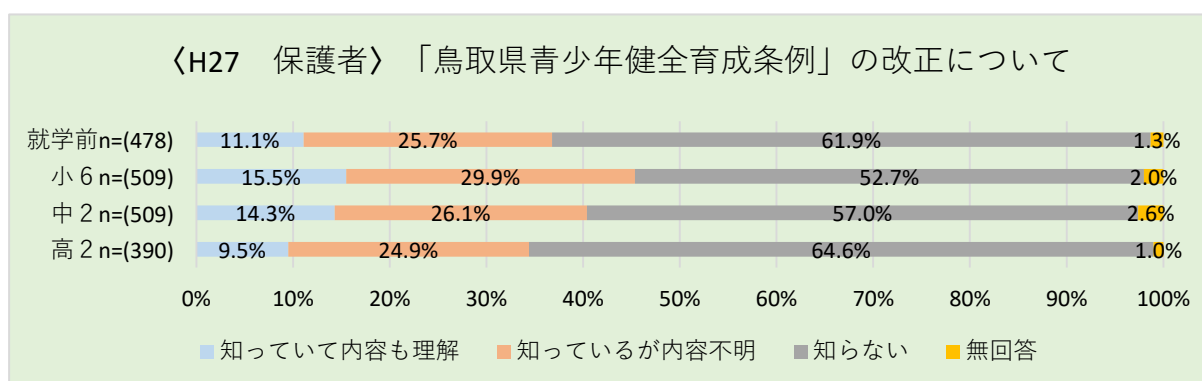
(2) 鳥取県青少年健全育成条例 (ペアレンタルコントロール)

〈保護者〉Q20. あなたは、「鳥取県青少年健全育成条例」で、保護者によるペアレンタルコントロール（青少年のインターネットの利用を管理するために、利用できる時間や場所などを制限するなどの措置をとること）が努力義務として規定されていることを知っていますか。（未就学児保護者含む：Q17）（対象：全回答者）



【参考】H27年度調査

〈保護者〉Q14. あなたは、昨年「鳥取県青少年健全育成条例」が一部改正され、保護者によるペアレンタルコントロール（青少年のインターネットの利用を管理するために、利用できる時間や場所などを制限するなどの措置をとること）の規定が追加されたことを知っていますか。

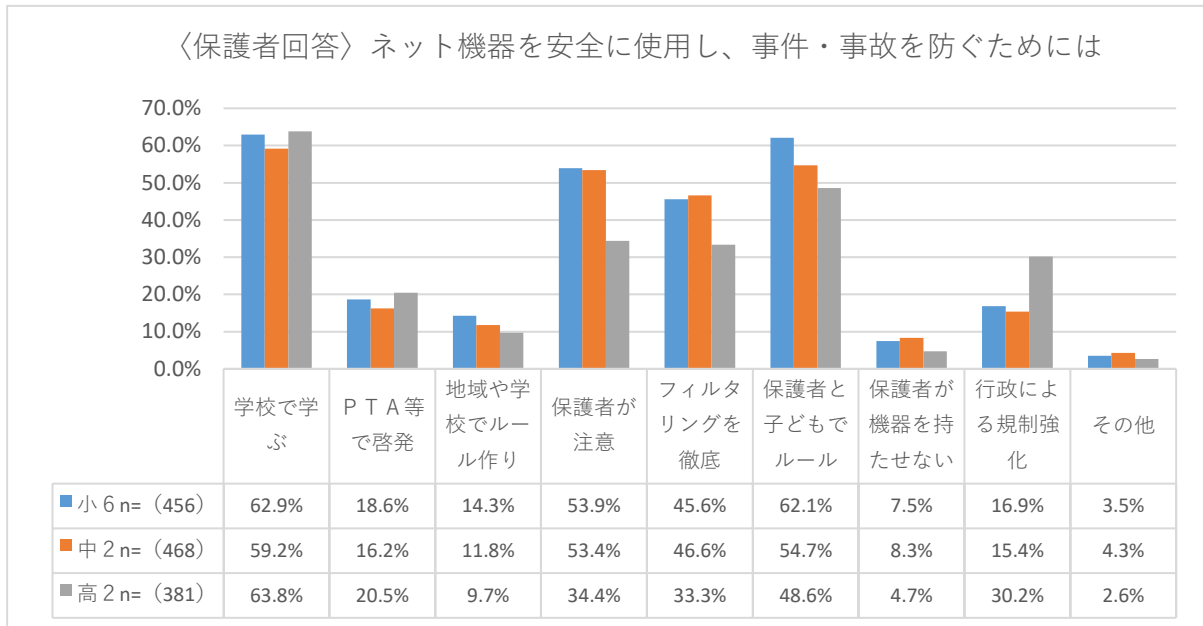


〈鳥取県青少年健全育成条例 (ペアレンタルコントロール)〉

- ・質問が多少異なるが、条例に関して「知っている」と回答した保護者は、H27調査と比較して未就学児で1.4ポイント増、小6で7.6ポイント増、中2で16.2ポイント増、高2で18.4ポイント増となった。

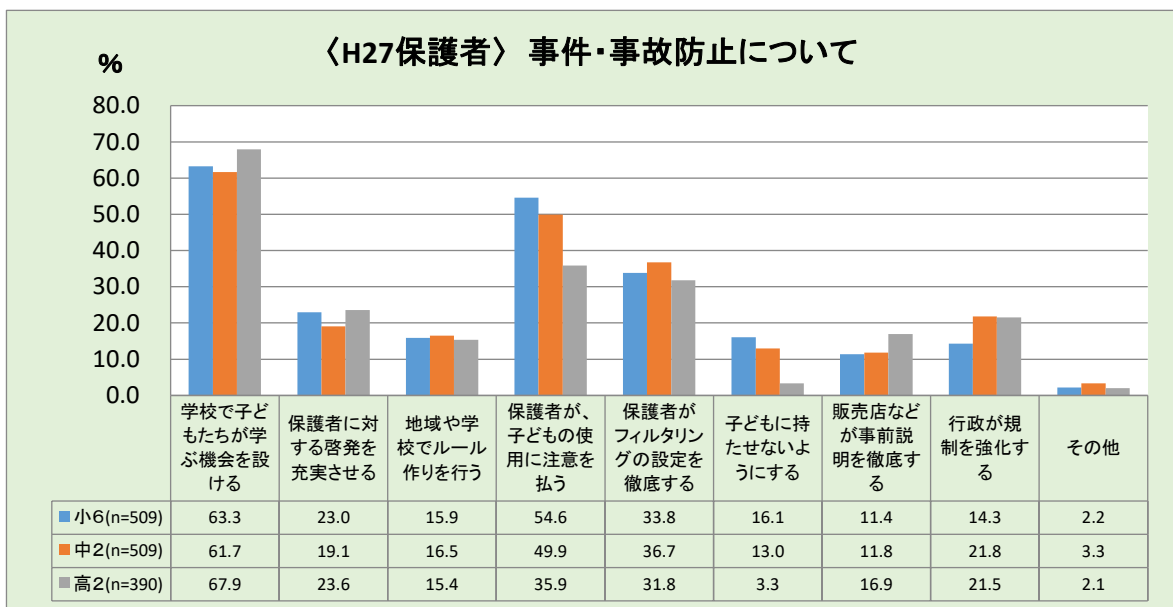
(3) 事件・事故を防ぐために

〈保護者〉Q21. 子どもたちがインターネットに接続できる機器(スマートフォン、ゲーム機等)を安全に利用し、事件や事故を防ぐためには、どうすればよいと思いますか。
(あてはまるものを選択(3つ以内))(対象:全回答者)



【参考】平成27年度調査

〈児童・生徒〉Q26. 子どもたちが携帯電話(またはスマホ)を安全に利用し、事件や事故を防ぐためには、どうすればよいと思いますか。
(あてはまるものを選択(3つ以内))



〈事件・事故を防ぐために〉

- ・どの学校種でも「学校で学ぶ機会を設ける」と回答した割合が一番高く、「機器を持たせない」と回答した割合が一番低くなっている。また、小・中では「保護者が注意を払う」「保護者と子どもでルールを作る」「フィルタリングの徹底」など、保護者自身が(子どもとともに)取り組める項目の回答割合がいずれも半数を超えた。